



## 青木村子どもはつらつネットワーク通信

平成28年度 第139号 4月1日

青木村子どもはつらつネットワーク事務局発行

青木村では子ども達を長期的に学校・家庭・地域で安心して育てていくため、各機関との連携や指導の工夫、子ども達同士のかかわり等を大切にしています。今回は特に早期支援の重要性について、教育長にお話しをお聞きしました。

また、月に一回保健センターでは「わくわく広場」を開催しています。未就園児の友だち作りと母親同士の交流を目的としています。先生方の思いの詰まったチラシをご覧ください、是非ご参加ください。



## 青木村が大切にしているインクルーシブ教育体制

### ー早期支援の重要性についてー

青木村教育長 沓掛英明

青木村では、5年前から発達障害を専門に勉強してきたカウンセラーを雇用し、保育園・小学校・中学校に、週1日ずつ訪問してもらっています。更に、学校だけでなく、住民福祉課が中心になって行っている、2歳児健診やわくわく広場にも参加していただいています。このように、カウンセラーが相談や支援の輪の中にいることで、保育園や学校間の連携だけでなく、教育委員会や住民福祉課など、課の壁を越えて連携ができるようになっています。

この体制が認められ、青木村では、平成25年から27年までの3年間、文部科学省の指定を受けて、インクルーシブ教育システムの研究を行ってきました。その内容については、平成26年の「はつらつネットワーク通信」に書かせてもらっています。研究の成果は、長野県中の先生方や保育士さんたち、教育委員や特別支援教育の各地の代表者の皆さんたちが集まる研修会等で発表させていただきました。また、信濃毎日新聞には、昨年3月に青木小学校の取組が紹介されました。このように、周囲からは高い評価をいただいています。実際に様々な事例を研究することで、何が重要であるか分かってきました。それは「早期からの支援」が最も重要であるということです。今回は、そのことに焦点を当てて書きます。



### ① 保健師さんとの連携

お母さん方への支援では、まず保健師さんが中心になって、お誕生健診から始まって、2歳児健診など様々な健診や、母子相談、「わくわく広場」を行っています。そのような活動を通して、心配がある保護者の方との相談を丁寧に行っています。わくわく広場には、保健師さんや保育士さん方、カウンセラーが参加し、遊びを通して子どもたちの成長を確認しています。他の子どもたちとのコミュニケーションに不安がある場合や、意思表示が難しい場合など、丁寧な支援が必要なお子さんには、通所の療育機関と連携した支援を行っています。上田市にある「蓮の音こども園」や「いずみ園」が、その通所の療育機関になります。

### ② 通所の療育機関の役割



蓮の音こども園などの療育機関では、遊びを通して、順番を守ること、整列して待つこと、指示を聞くことなど、集団で生活していくための基本的なルールを教えてください。更に、保護者の方との相談も大切にしており、家庭での生活についても大事な示唆をいただいています。

通所の療育施設では、半年または1年間という期間を決めて、入所をして療育を行ったり、週に1日保護者と一緒に通所して、集団での遊びを通して指導を行ったりする制度があります。また、保育園に、月に1日程度、指導者が訪問して指導してもらうなどの制度も用意されています。

このような制度を利用して、子どもの理解や必要な支援、保護者への指導を、保育園に丁寧につないでもらっていることが、大変に重要なのです。一人の子に合った丁寧な支援を大事に考える姿勢は、すべての子ども達に通じることになり、保育士さん方の専門性の向上につながります。

### ③ 保育園での支援体制

保育園では、日々の遊びや学習を通して、友達と一緒に遊ぶ力や、自分のやりたいことを言える力などを育てていきます。加えて、先生のお話をしっかり聞いたり、任せられた役割を行ったりする力など、集団で生活する楽しさやルールを覚えていきます。

支援が必要なお子さんには、気になる姿から、どうしてそうなるのか原因を考えて必要な配慮を行っています。また定期的に、成長した姿や、これからの指導方針について保護者を交えて支援会議を行っています。

このような指導を重ねる場合、通所の療育機関から引き継いだ支援の方法は、とても大事な指導法になります。保護者も、保育士さんもその子の困り感に寄り添って、育ちの方向を共有できるからです。





保育園では、小学校入学に向けて、スムーズなスタートが切れるための移行支援も大切にしています。見学や体験を何度も行ったり、お化け屋敷やハロウィンパーティーなど、子どもたちが計画をした遊びも楽しんだりしてきました。また、必要があるお子さんには、入学前に教室の場所や座る位置、入学式の動き方など



事前指導も丁寧に行っています。

保育園から小学校に入学するための支援のためのバトンの役割を果たすのが、個別の支援計画です。ここには、その子のよさや困り感、支援方法、保護者の願い等が書かれています。この個別の支援計画は、保護者の方に書いていただき、保育士さんが書き加えて完成させて小学校に伝えています。

青木村では、保小中一貫教育を大事にして、保育士さんや先生方が連携を図っているので、この移行支援はとても丁寧に行われています。

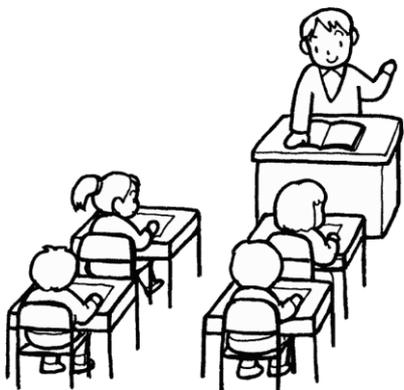
#### ④ 小学校・中学校の役割

小学校では、保育園との支援会議や個別の教育支援計画を下にして、丁寧な支援を行っています。昨年の3月に信濃毎日新聞でも取り上げられた、分かりやすい授業の工夫

や校内の環境整備を行っています。時間を分かりやすくする時計や、授業の流れを黒板に書いておいて、見通しが持てるような工夫をしています。

更に、特別支援教育支援員の先生が、丁寧に寄り添って、指導に当たります。インクルーシブ教育を進めることは、一人の子どもだけでなく、すべての子どもに分かりやすい授業になるという考え方でいます。

小中学校でも、個別の支援計画は重要な支援ツールになります。



#### まとめ

3年間、文部科学省の指定を受けて、インクルーシブ教育の研究を進めてきた結果、最も重要なことは、支援が必要な子どもさんへの早期支援を行っていくことが鍵になると考えています。早期支援を整えるためには、様々な機関との連携を図る必要が出てきます。多くの方が、チームとして支援にかかわることで、的確な支援が明らかになり、入園、入学の時に移行支援が丁寧に行われます。その結果、保育園や小中学校の先生方の指導の専門性も高くなることになるからです。

また、昨年度から、全国的にも有名な臨床心理士の奥田健次先生を指導者としてお願いしています。青木村では、これからもこの体制を大切にしていきたいと考えています。

## はつらつ先生 IN あおき

今回は、青木小学校6年1組担任 **山本 崇** 先生です。

- 好きな食べ物…365日毎日納豆を食べています。ねぎ、しらす、刻んだ梅づけ、からしを入れます。一回にどの位の納豆を食べられるか挑戦してみましたが、最高で8パック食べました。カレーライスも好きです。バーモントとジャワカレーの中辛をミックスしたのが定番です。木曾のすんきも大好きです。お味噌汁に入れると美味しいです。元気が出ます。

- 苦手な食べ物…まったくありません。

- 趣味…スノーボード。スキーは3歳ぐらいから滑っていましたが、大学の人にスノーボードを始めてはまりました。シーズン券を買って毎週土日に滑りに行っています。吹雪の日でも行きます。夏はスケボーや山登り、水泳やジョギングをして、すべてはスノボの為にトレーニングをしています。



- どんな子どもでしたか?…探検したり、戦ったり、柿や桑の実、いちじくなどを採って食べていました。怪我ばかりしていました。テレビゲームは下手だったのであまり好きではなかったです。

- 先生にならなかつたら?…22歳の時にプロのスノーボーダーになろうと思ったこともありましたが、小学校低学年の時の担任の先生に憧れて先生になろうと思いました。

- 好きな有名人は?…大河ドラマ『真田丸』に出演していた役者さん全員が好きです。終わってしまい、ひきずっています。ドラマ館には2回行きました。特に佐助が好きでした。キングカズを尊敬しています。

- お休みの日は何をしていますか?…すべてはスノーボードの為に使っています。娘も一緒に行くこともありますが、私がいまにも熱いのでドン引きしています。



**編)集)後)記)** 平成 29年度前期のはつらつネットワーク参加団体活動計画表を作成いたしました。日程をご確認いただき、是非積極的にご参加いただけたらと思います。詳細は、各団体の代表者または教育委員会にお問い合わせください。